春野菜作付面積の適正化によるトマト作業の充実　令和５年度

～トマトの収量向上～　【要改善農業者（４戸）】（地域第１係・課題番号３）

１　課題の背景

北斗市東前地区では、３～11月までトマトを中心としたハウス内輪作が行われている。しかし、図１のように春野菜の収穫とトマトの管理作業が重なると、管理作業が後手に回ることが多い。この問題を解消するため、春野菜の作付面積を適正化しトマト作業の充実を図った。

２　活動内容

推進事項：トマト作業充実農業者戸数　（２戸→３戸）

要改善農業者に対し、労働ピーク分散を図る作付・労働時間の改善モデルを提案、実施支援を行った（図１、２）。

【現行モデル】　**【改善モデル】**

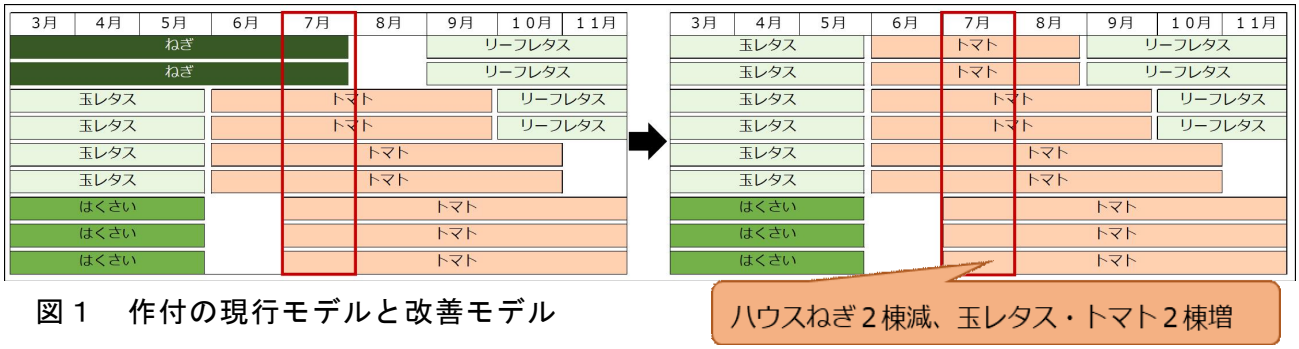

図１　作付の現行モデルと改善モデル

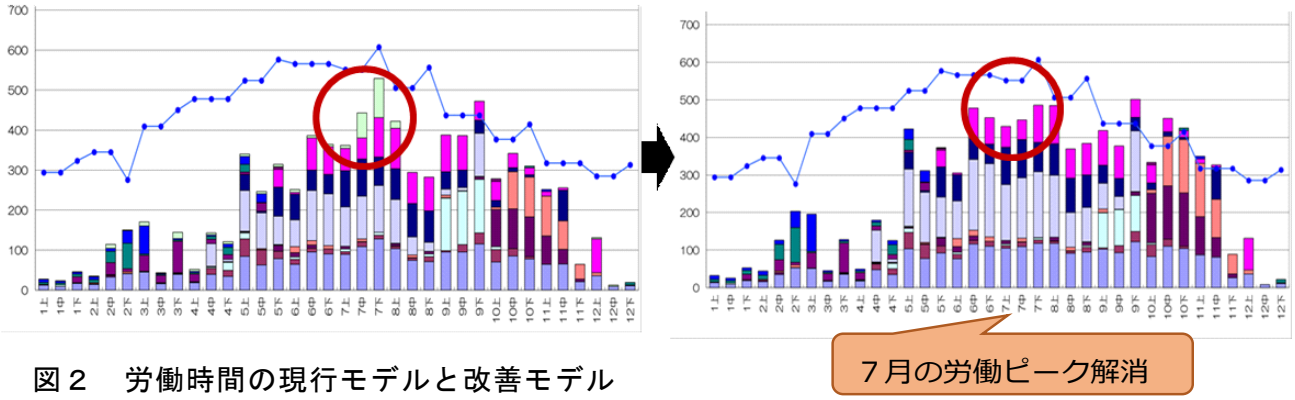

図２　労働時間の現行モデルと改善モデル

３　活動成果

【トマト作業充実農業者戸数　２戸→３戸へ】
７月の労働ピーク分散→収穫作業充実！

実践農業者は、７月の労働ピークが改善し、約44時間の労働時間を確保することができた。そのため、増棟した２棟分に加え、更に高温で前倒しになったトマトの収穫作業にも対応することができた。

しかし、かいよう病の発生と９月以降の裂果の多発により、収量は前年比78%と減収した（図３）。

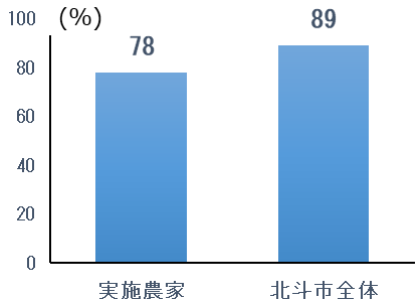

図３　トマトの10a当収量（前年比）

４　今後に向けて

令和5年は増収にはつながらなかったが、労働分散とトマト作業充実は実現できたため、本課題は終了とする。